

他次元から訪れる夢 の 日記



「それでは
私は行きます」

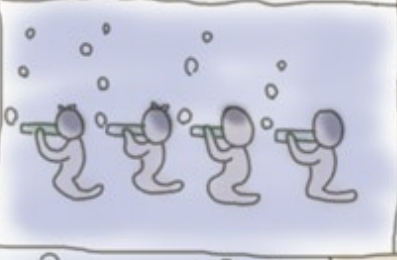
「キョウシナ」



人が竹筒で
息を吐いて
それで進むの
船だ



下男は大勢いる



一人の男が
息を吸うために
竹筒を水面に出した



こいつは
ない代わる



このまま
この船について
出国しよう



「じやいって水面を見よう
きれいだろ」



「ほら、本当に
きれいなんだから」



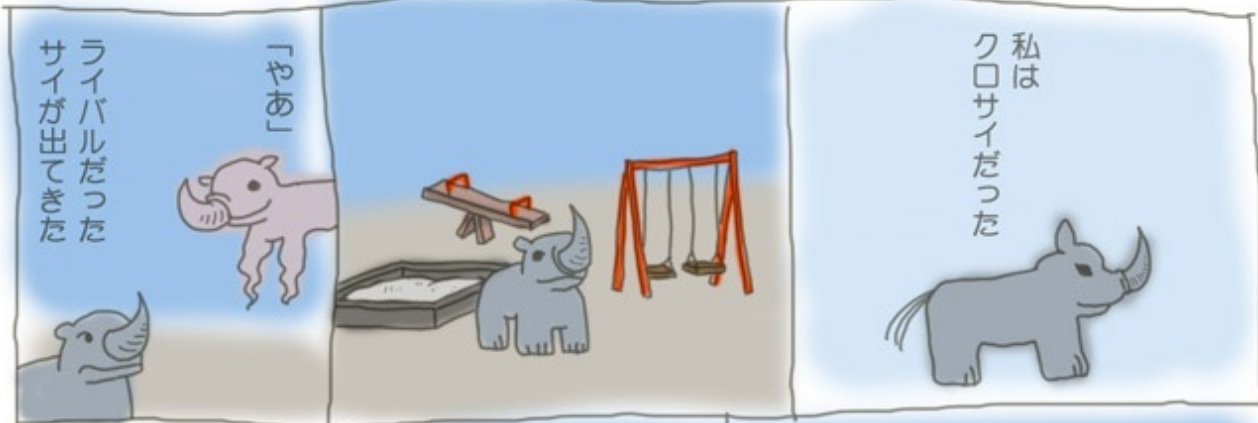
船より先に進んで
見てみよう



「なんでいってんねん!!!」



「なんや」



ライバルだった
サイが出てきた

「やあ」

私は
クロサイだった

何故こいつは
私にくれるのだろう
気があるのか？

クロサイのツノは
勇者のあかしだ
これを持っているのは
とても名誉なことなのだ

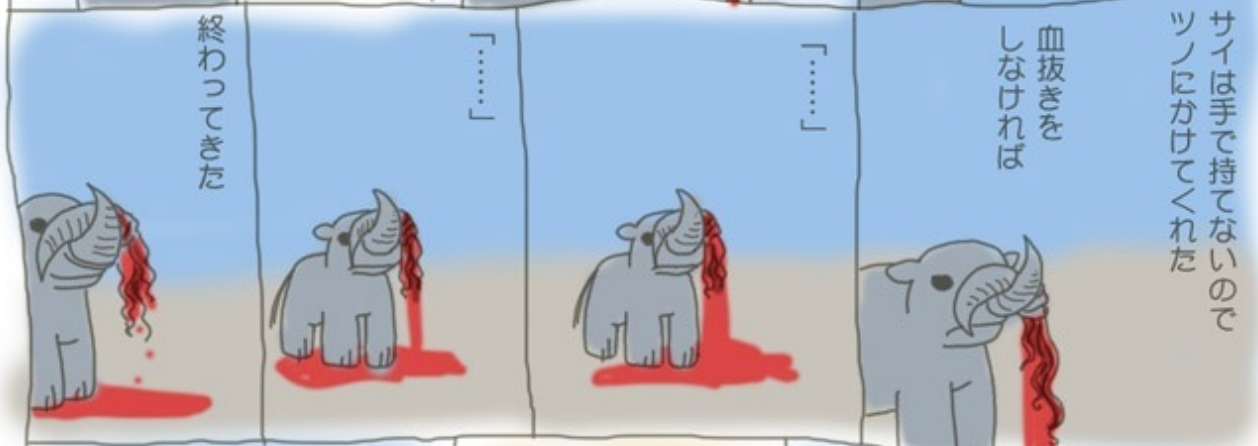
クロサイのツノをもらった
まだ血が滴っている

「これをあげるよ」

彼は何故
生前ライバルだった
私のところへ
出てくるのだらう
何故こんな
なれなれしいのだらう

「えっと…
元気かい？」

「……」



サイは手で持てないので
ツノにかけてくれた

血抜きを
しなければ

「……」

「……」

終わってきた



ああ
疲れた

手が使えないし
しこみが
大変だ

「それを貸して
しこみを
やってあげるよ」

「なにい!!」

さんさん
やらせておいて
何を言ってる!!

「別に
いいよ」

最初に言え
まったく

2003年7月24日





「もう一度お医者さんに
来てもらわなきゃ」

「トイレ行ってくる」

「え？ 脳がないのに
トイレいけるの？」

「考えられるの？
大脳以外の
トコで？」

ガン

小脳とかかなあ…
呼吸中枢とか残ってるし
大丈夫なのかも

とりあえず
お医者さんに
電話しよう…

まずイトコにかけて
電話番号聞かなきゃ

「ああ、分かってるよ
お医者さんには
連絡しとくから」

「大変だけど
がんばってね」

「ありがとう
お願いね」

結構脳がなくても
平気なんだなあ…

「それより脳が
渴いてきちゃった…
どうしよう」

「どうしたら
いいかなあ…」

「うん」

「ねえ…」
「うん」

ああ、やっぱり脳がないから
全然ダメだ

渴かないように
頭蓋骨をかぶせておこう

「乗せてるだけだから
落ちないように
気をつけてね」

「なるべく下向いて
落ちないようにね」

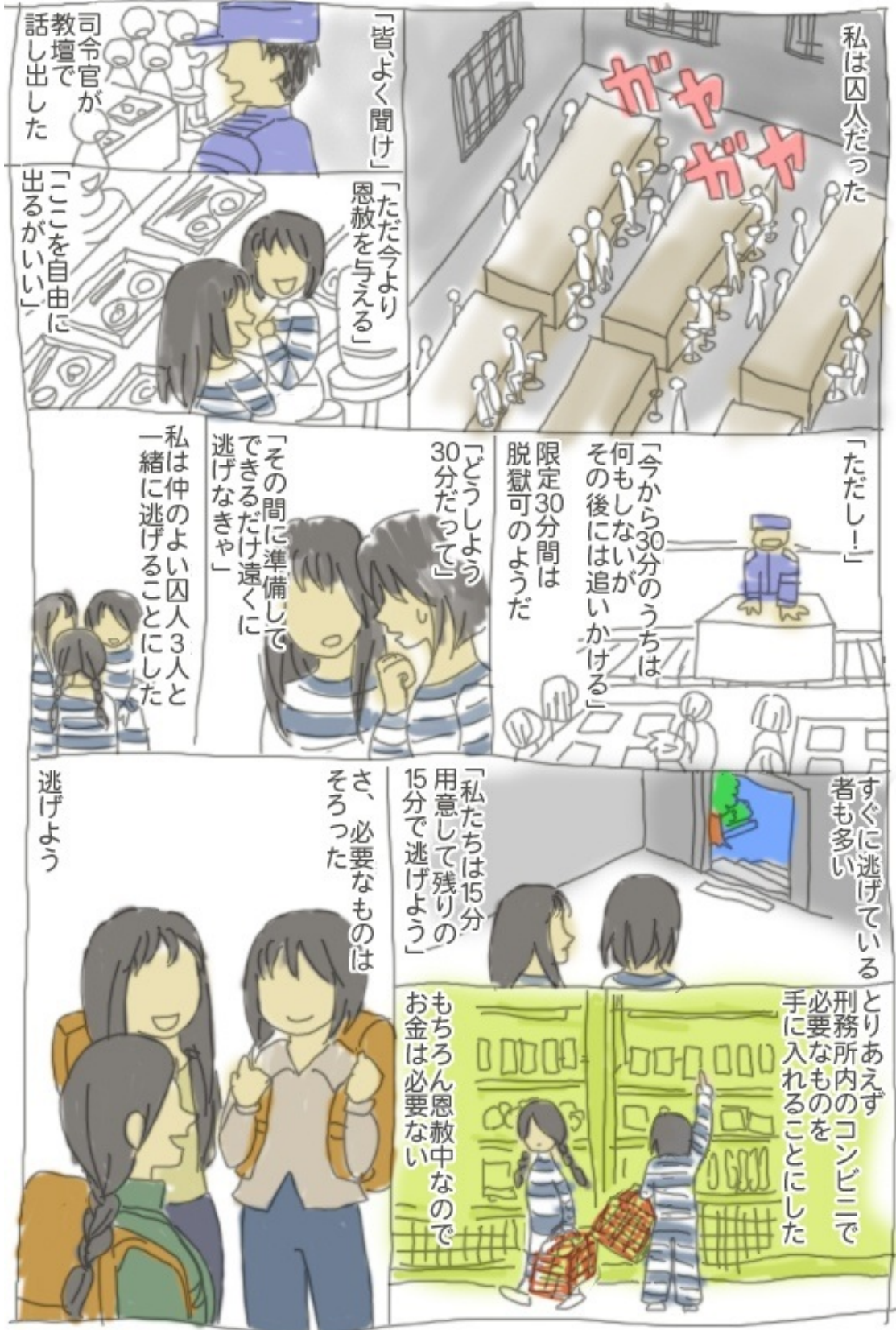
ガン

「そんなに急に
動いちゃダメだよ」

「ホントにかぶせてる
だけなんだから」

「うん」

2004年





走れ!!
走れ!!
しかし足が重くて
うまく走れない

できるだけ遠くまで!!



みんな手の力はあるので
手すりを使って
必死に遠くまで
逃げようとする

大きなスーパーを
見つけた

30分経って
追っ手も追いかけてきているし
ここにしばらく
隠れよう

手で体を
引っ張る感じだ



しかし仲間の一人が
中に入ろうとしないが

「どうしたの?
早く入ろうよ
見つかっちゃうよ」

「あっ!」
会社のSさんに見つかった!

通報されるかと思ったが

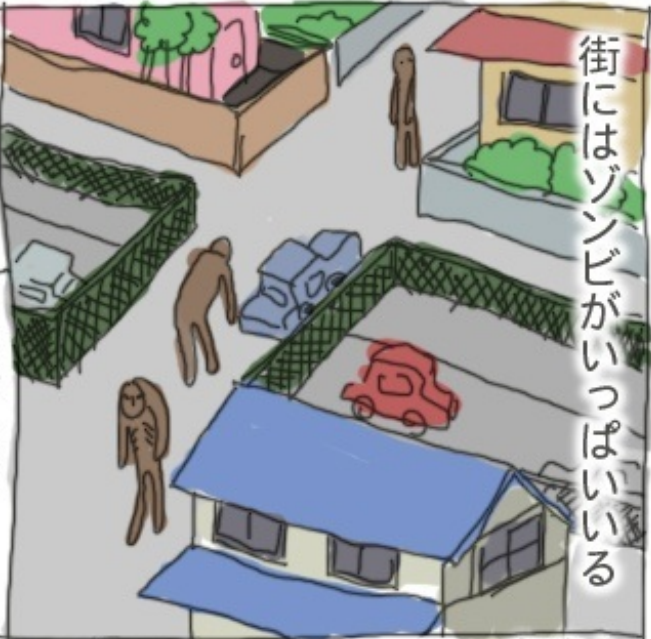
あいさつして
素通りして行った

2005年



感染するが

ゾンビに一度かまれると



街にはゾンビがいつぱいいる



心は人間のままでいられる

皮膚が茶色くドロドロになるけれど



家から出られない

だから外にはゾンビがたくさんで



しかし二度かまれると心までゾンビになってしまうのだ



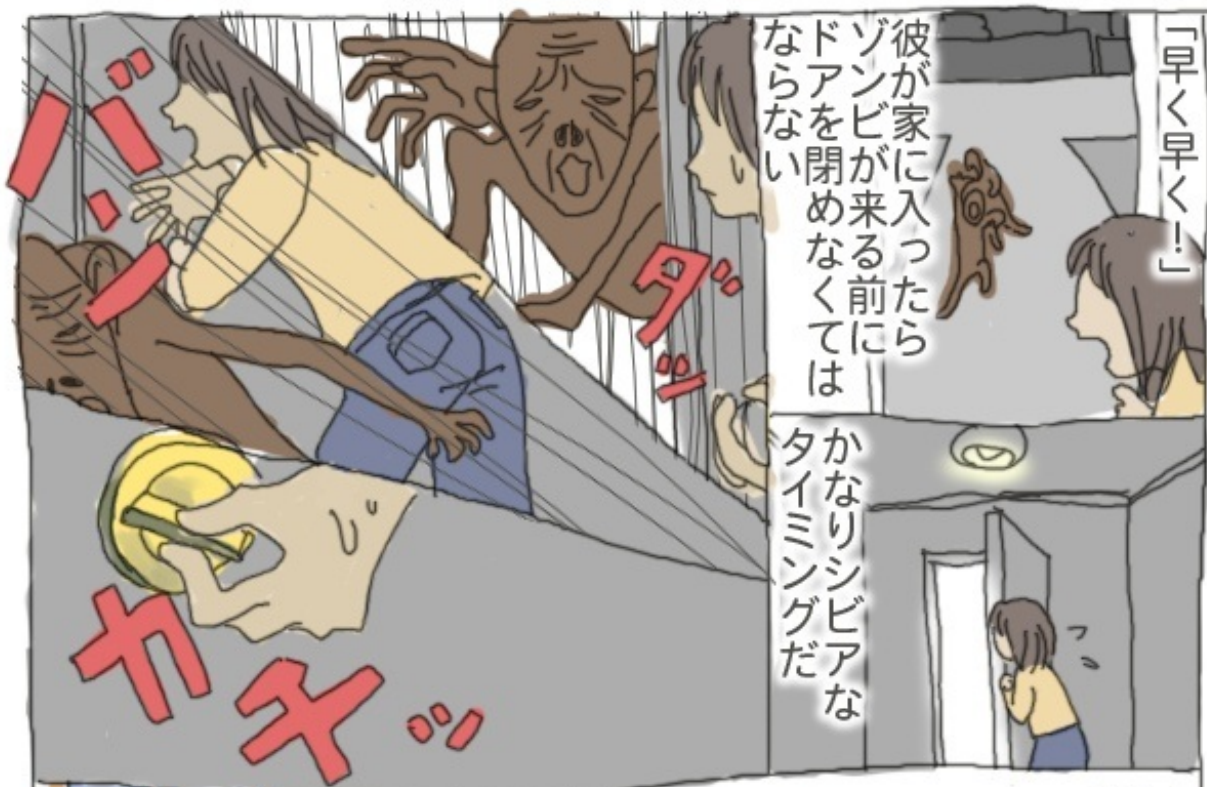
外見はゾンビだけだがまだ精神的には人間だ

誰かが襲われている



うわー

うわー



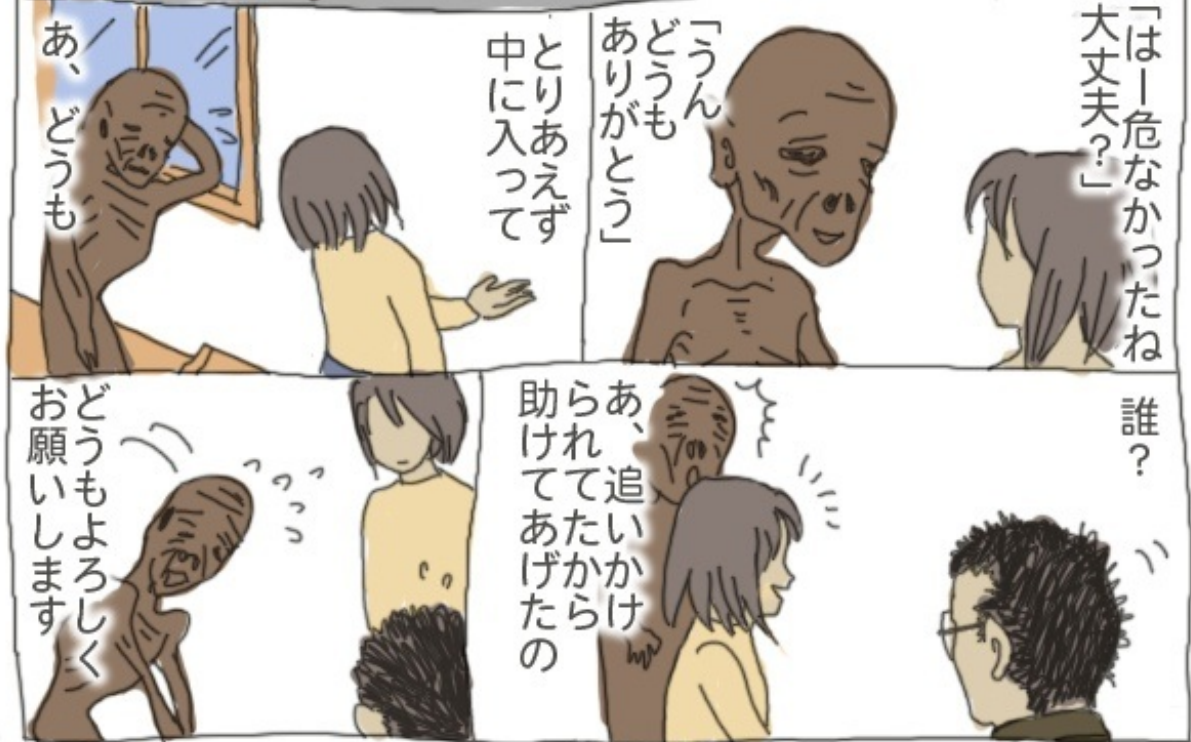
「早く早く！」

彼が家に入ったなら
ゾンビが来る前には
ドアを閉めなくては
ならない

かなりシビアな
タイミングだ

カチッ

ダッ



「はー危なかったね
大丈夫？」

「うん
どうも
ありがとう」

とりあえず
中に入って

あ、どうも

誰？

あ、追いかける
からあてがいの
助けてあげたの

どうもよろしく
お願いします

2005年7月

